

NOP NEWS

2015年初春号

20

ニュー・オペラ・プロダクション

〒168-0064 東京都杉並区永福 3-20-3 TEL: 03-3328-0817 FAX: 03-3328-0655
e-mail newopera@jcom.home.ne.jp URL <http://members.jcom.home.ne.jp/newopera>

明けまして、おめでとうございます。

年頭に当たり、改めて、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

私がNHKを30年務め終えた後、オペラの普及振興を願って有限会社ニュー・オペラ・プロダクションを設立したのが1990年6月1日でしたから、今年が丁度創立25周年に当たります。その25年の間に自主オペラ公演を13回開催し、その内、舞台初演した演目が3本、また、市民オペラに演出や舞台制作の面で協力したのは50公演を越え、コンサート活動でも、自主公演のNOPコンサートは51回、それ以外の依頼コンサートなども20公演を越す回数を重ねました。字幕監修はNHKの放送や新国立劇場、藤原歌劇団の公演等、50を越す作品をてかけ、杉オペラ演技研究所を設立しては新進歌手の育成にも力を尽くしてきました。

殆ど徒手空拳の状態で、ここまで実績を上げることが出来たのは、周囲の皆さんのお力添えあってのことで、改めて、心からの感謝を申し上げる次第です。

創立25周年を記念する何らかの催しを是非開催したいと思い、目下、検討中です。決まり次第、お知らせ致しますので、どうぞ、お楽しみに。

代表 杉 理 一

オペラ・ビデオ鑑賞会講座 第4シリーズ 第5シリーズ

2012年秋から始めたNOPオペラ・ビデオ鑑賞会講座は、次は春、次は秋と第3回シリーズまでは東京文化会館で、第4回シリーズは、東京文化会館改装のため、会場を東京芸術劇場の会議室に移して続けて来ました。

保存している珍しいビデオ映像を編集してハイライトや名場面集に纏めスクリーンに投影し、舞台制作やテレビ収録の苦労話やエピソードを交えた解説をつけ、少しでも、オペラがどんなに面白く、心を豊かにしてくれるものかを実感していただければ幸いと思っています。

今年4月29日からスタートの第4シリーズでは、NHKイタリア歌劇公演の「リゴレット」「ラ・ファヴォリータ」ハイライト、それから世界的トップ歌手による「トスカ」「カルメン」の名場面集、日本の遊廓、吉原を舞台にしたマスカーニのオペラ「イリス」ハイライトと、楽しいオペレッタ映画等、第5シリーズでは、NHKイタリア歌劇公演「フィガロの結婚」「シモン・ボッカネグラ」「椿姫」、リヒャルト・シュトラウスの「バラの騎士」、ヨハン・シュトラウスの「こうもり」のハイライトの他、珍しいオペレッタの名場面集をご紹介します。

さて、新年の4、5月に第6シリーズを、新装なった東京文化会館会議室で開催の予定ですが、いくつかの貴重な映像候補を挙げ、会員の皆様のご希望を伺った上で、どのようにプログラムを組むかを決める予定です。



NOP オペラ・ビデオ鑑賞会。第5シリーズ講座風景。

青森・平川「歌の花束」コンサート

二期会からの依頼を受け、7月30日、青森市民ホールで、7月31日、平川市文化センターで行われた「日本と世界を結ぶ 歌の花束」コンサートの構成、演出で制作協力しました。この公演は宝くじの助成を受け、青森市、平川市とそれぞれの教育委員会等の主催、青森放送、青森テレビ等の後援によって実施されたもので、出演は二期会の人気ソプラノ鮫島有美子、新進テノール鈴木准、ベテラン・バリトン多田羅迪夫の三人とピアノ伴奏山岸茂人によるコンサートで、第一部が日本歌曲集、第二部が世界各国の名曲、ミュージカル・ナンバーという充実したプログラムでした。ご来場のお客様の盛んな拍手を受け、アンコールで最後に歌った「ふるさと」は、お客様も一緒の大合唱となり、最高に盛り上がりました。



3人の歌手。左から、多田羅迪夫・鮫島有美子・鈴木准。

和歌山オペラ・ビデオ講座『魔笛』

和歌山市民オペラ協会会長の多田佳世子さんは全日本オペラ・ネットワーク運営委員会のメンバーでもあり、市民オペラの振興に情熱的、献身的に取り組んでおられ、後進の指導にも熱心で、人望も厚く優れたプロデューサーとしての力量をお持ちの方です。多田さんの依頼で2011年9月、和歌山市民会館で「末摘花」上演に協力し、好評に応じて一昨年9月にも再演しました。そして、今度のご依頼は、昨年9月8日に和歌山市民会館小ホールで「オペラ『魔笛』を親子で楽しむレクチャー」という催しの第一部で、ビデオを大スクリーンに映し出し、私の「物語・歌・演出、オペラを楽しむ三つのポイント」という、お話をしました。第二部は、和歌山市民オペラ協会のメンバーによるハイライト公演でした。



第1部のビデオ講座と第2部の公演風景。

グランシップ音楽の広場 in FUJI 2014

静岡のグランシップという巨大な会場で一昨年、「グランシップ音楽の広場2013」が開催され、そこで佐野成宏、安藤赴美子、青山貴、三人のオペラ歌手が歌うアリアの字幕監修を頼まれましたが、昨年も、引き続いての依頼がありました。ただ、今回は会場のグランシップが改装で、使えないため、会場を富士市文化会館ロゼシアターに移し、「3000人で創る真夏の音楽祭」のタイトル通り、大ホールと中ホールとを二元で結び、大ホールでは大オーケストラをバックに歌手が歌い、中ホールの大合唱が、それに和し、途中で、メンバーが移動して会場を代えるという大変、大胆な、ユニークな演奏会で、客席のお客様まで巻き込み盛大に行われました。今回の歌手は人気の腰越満美、錦織健、そして、オーケストラの指揮は前年同様、広上淳一の皆さんで、「トスカ」「蝶々夫人」「トゥーランドット」等の字幕を監修しました。



グランシップ「音楽の広場」2014 会場遠景。スクリーンには中ホールの映像が。

第3回東京オペラ・フォーラム開催

ニュー・オペラ・プロダクションはオペラを制作する団体として、全日本オペラ・ネットワークの組織に属しています。このネットワークは、今から19年前に日立市科学文化情報財団が全国の市民オペラ177団体に呼びかけて始まった全国オペラ・フォーラムから生まれた組織です。このフォーラムは今までに13回、主として日立シビックセンターで開かれてきましたが、IT時代に対応してフォーラムの期間だけでなく、市民オペラ団体を常時、インターネットで結び、新しい情報を交換したり、共有したりすることによって、よりオペラ活動を活性化しようと2004年、この全日本オペラ・ネットワークが誕生、活動を続けてきました。しかし、長引く経済低迷に加え、4年前の東北大震災とそれに伴う原発事故等もあって、オペラ団体の中には活動を停止したり、計画を縮小せざるを得ない事態に追い込まれたところが続発しました。

そのような状況下、2011年11月、全日本オペラ・ネットワークは、東北大震災で大きな災害に見舞われた日立の事務局に極力負担をかけない方法を考え、東京文化会館のご協力を得て、第1回の東京オペラ・フォーラムを開催。その翌年2012年7月に、第2回を開催、そして、昨年は東京文化会館が改修工事のため、東京芸術劇場に会場を移し、9月23日にお互いの意見交換がしやすい小規模のミニ・フォーラムという形で第3回目のオペラ・フォーラムを開催しました。

今迄コンスタントに財団や大企業から支援を受けていた多くの団体が助成や後援の対象から外されたり、金額が大幅に減らされ、公演規模の縮小や中止を余儀なくされている状況が深刻さを増している中、僅かな時間でしたが、セゾン文化財団プログラム・オフィサーの久野敦子さんと東京芸術劇場の高萩宏副館長さん、それに、わざわざ韓国からご参加下さった韓国室内オペラ連盟のイ・ウンスンさんにもアドヴァイザーとして加わっていただき、活発な意見交換、討議を行うことが出来ました。

私、杉は、全日本オペラ・ネットワークの組織発足の時より、全国の市民オペラの活動に少しでもお役に立つことを願って、その運営委員会の委員長の重責を担ってきましたが、在職十年を区切りに、組織をより活性化するために、その任をより若い世代の後進に委ねることにしました。そして、今後はネットワークの一員として、協力し続けるつもりです。

NHK 旧洋楽班祝寿懇親会

私が勤めたNHKでの30年の間で最も印象深かったのは、何と言っても20年間で8回も行ったNHKイタリア歌劇公演シリーズで、今、考えると、それがNHK洋楽班の、いや、NHKの全盛期であったような気がします。沢山の番組があり、沢山の優秀な先輩、同僚、後輩と一緒に懸命に番組を作った思い出は大変貴重です。しかし、時が過ぎ、最近では、その先輩や同僚が病に倒れたり、鬼籍に入ったり、仲間が久しぶりに集うのは悲しい席が多くなってしまいました。

そこで、旧洋楽班の先輩で、今も元気に音楽評論家として活躍しておられる三善清達さんが米寿を迎えられると伺ったことから思い立ち、旧洋楽班の同志を募り、祝寿懇親会を開いて、米寿、傘寿、喜寿、古希、還暦と今迄、お祝いしなかった人全員の長寿を喜び、乾杯をしようということにして、NHK 旧洋楽班祝寿懇親会と命名、前和男元洋楽部長に世話人代表をお願いし、その下に杉を含めた6人の世話人で、お膳立て進行を務めました。

当初は、せいぜい50人位に声を掛けるつもりでしたが、「あの人も洋楽班にいた」、「あの人もそうだ」と、どんどん増えて、最終的には90人に呼びかけ、43人の仲間が出席、10月21日、渋谷東急本店8階レストラン「DEMI」で開催、楽しい歓談の時を過ごしました。

日本の洋楽ファンに永年に亘り、沢山の音楽番組を通じて優れた音楽を提供してきた仲間達の努力が、今日の洋楽普及に大きく貢献し、それが引いてはニュー・オペラ・プロダクションの活動基盤になっていることを思えば、この会開催に、陰の裏方として協力し得たことを嬉しく思います。



NHK 旧洋系班祝寿懇親会に集まった仲間たち

♪ NHK アーカイブスへ資料提供

2012年秋からオペラ・ビデオ鑑賞会に入会された会員を対象に、映像をお見せしながらの講座を始めましたが、そのきっかけは、私が膨大な数の映像資料を持っていたからです。NHKイタリア歌劇公演はもとより、私が中継収録、放送や字幕監修をした日本のオペラ団による公演は勿論のこと、海外から来日した世界一流歌劇場の公演など、古いベーターやVHS、DVDで記録されたものなどです。収録した素材を、どのように料理してオン・エアするかを検討したり、よりよい放送番組を作るための研究材料、反省材料として録りためたものでした。

ところが、最近、NHKのアーカイブスという昔は資料部とよばれた部署が放送センターから離れた川口に本拠を置く組織になり、NHKの過去の放送の記録を収集、保存することを始めたところ、今迄は総合テレビに重点が置かれていたため、教育テレビの過去の貴重な映像が欠落していたことに気付き、かつてNHKに在職していた所謂ディレクターOBに広く呼びかけ、資料の収集に乗り出していることを知りました。自分の育ての親とも言うべきNHKの役に立つならば、と手持ちのビデオ映像を既に数百本、アーカイブスに提供しています。

♪ 文化庁新進歌手育成事業に推薦した 矢野美由紀の出演が決定

昭和音楽大学を通じ、平成26年度、文化庁、次代の文化を創造する新進芸術家育成事業の一環で、地域の歌手の中から優秀な人材をオーディション審査で選び、新国立劇場で行われるオーケストラ伴奏の披露演奏会で紹介したいので推薦して欲しい、との要請が来ました。応募条件は関東近県の歌手以外ということで、今迄、広く地方の市民オペラ制作に協力し関わってきた当プロダクション故の要請と思われました。

応募した沢山の候補者の中から、みごと合格、出演が決まった矢野美由紀さんは一昨年、神戸で当プロダクションが制作協力した「末摘花」公演で主役の末摘花を演じた関西二期会所属、延岡出身のソプラノ歌手です。過酷な条件の中での公演に懸命に取り組み、歌唱、演技両面で観客に深い感動を与えたので、推薦しました。

披露演奏会は2月23日、月曜日、午後7時開演です。どうぞ、皆様もご注目、ご声援を御願います。詳細は昭和音楽大学演奏センター（電話044-953-9865）にお問い合わせ下さい。大学のホーム・ページでもご覧になれます。



ちょっと お耳(?)を拝借*2015

♪ 北海道余市を訪ねて

NHKの朝の連続ドラマで、今、話題の「マッサン」こと、ニッカウキスキーの創業者で社長だった竹鶴政孝は、私(杉)の父の従兄弟、つまり、祖父杉晴之助の弟、敬二郎の息子が政孝です。幼い頃、父に連れられ、ゆったりとした風貌の髭の政孝おじさんに会ったこともあります。という訳で、去年十月半ば、家内と千歳空港でレンタカーを借り、ニッカウキスキー所縁の地、余市の広大な敷地内にある竹鶴政孝記念館(旧住居)やウキスキー貯蔵庫等を見物して来ました。

余市の次に定山溪へ車を走らせ、生まれてこの方、これ程迄に美しい錦繡に彩

られた山々が連なるのを見たことがない、と思う位の見事さに感動しました。その途次、ふと行きずりの道沿いに「ふくろうの散歩道」という不思議な看板を見つけ、思わず車を降りてみて驚きました。そこは周囲に生い茂った木々に溶け込んだ、こじんまりとした森の空間の趣で、至る所に、それはそれは見事に木を彫って作り上げた鳥や動物達が雨ざらしのまま、木の枝や洞の中、茂みの陰から、訪問者を見つめていたのです。フクロウ、親熊、小熊、キツツキ、小鳥、兎、河童など、傍らの鄙びたお家の中まで、かわいらしい木彫動物の宝庫のようでした。作り主の三好純男さんも奥様の春美さんも仙人ご夫婦のように凡俗の汚れと無縁の穏やかな優しい物腰のすてきな方でした。



ふくろうの彫刻と一緒に家内と

マッサンおじさんの銅像と一緒に